



清中だより

手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬

【電話】042-493-6311

【所在地】〒204-0003 東京都清瀬市中里 5-624

清瀬教育の日

校長 小池 雄志郎

前号では、2学期の学習活動として修学旅行と音楽祭を取り上げました。今回は、10月14日(木)～16日(土)に清瀬市立小中学校全校で実施いたしました「清瀬教育の日」についてご報告します。「清瀬教育の日」は、清瀬市教育委員会及び清瀬市立小中学校が行っている教育活動やその成果を広く学校内外に周知することなどを目的としております。本校では、今回、次の取り組みを実施いたしました。

《オンライン学校公開》



学年及び時間を区切ってオンラインによる学校公開を行いました。オンラインと言っても、授業の様子を別室でご覧いただくという、実験的な意味合いを込めた取り組みですが、1年生は10月14日(木)5・6時間目に、2年生は15日(金)5・6時間目に実施しました(体育の授業につきましては、実際に体育館等でご覧いただきました)。

《進路説明会》



10月16日(土)、3年生の保護者を対象として、今年度の入試選抜等に特化した進路説明会を行いました。このところ新型コロナウイルスの感染拡大防止に関連して、高校入試の方法が少しずつ変わってきています。例えば昨年度は、出願を実験的に郵送で行うという学校があらわれ、今年度はさらに増えるといった状況があります。言い換えれば、例年通りのやり方、つまり古い情報にたよると間違いが起こるということです。一つ一つの手続きに慎重さが求められます。当日は多くの保護者の皆様にお集まりいただき、ご関心の高さをうかがうことができました。

《道徳授業地区公開講座》

本来ならば多くの保護者・地域の皆様にご覧いただく公開講座ですが、教室の密を避けるため、本誌面と学校ホームページによる公開とさせていただきます。実施内容の詳細は、下記のとおりです。

1年



題材名	決断！骨髄バンク移植第一号（新しい道徳1 東京書籍）
題材の概要	自他の「いのち」の大切さについて、あらためて考えるきっかけとする。また「いのち」あるものは互いに支え合って生き、また生かされていることに感謝できる心情をもたせたい。
授業のポイント	悩みながらも自分の骨髄を提供した主人公の姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする気持ちをもてることを目標とする。
授業実践を通して	導入にACジャパン骨髄バンク協会のCMを見た。またオリンピック競泳選手、池江里佳子さんの話題にも触れ、当時は彼女が病気を告白することで若者のドナー登録数が2倍増になったことを話した。移植第一号となった主人公の揺れ動く気持ちを理解し、もし自分であったら「ドナー登録をする・しない」を心情円を使って発表させた。結果、約半数ずつの意見があり、中学生の正直な心情がうかがえた。助け合いや自分の行動が誰かの「いのち」を救うということが分かり、「いのち」について様々な考えを共有できた。

2年



題材名	最後の酸素ボンベ（モラルシネマ教材）
題材の概要	「国境なき医師団」の一員としてボスニアに派遣された貴戸朋子さん。物資の届かない状況の中、もう助からないであろう5歳の男の子に最後の酸素ボンベを使うべきかの判断を迫られる。
授業のポイント	最期の酸素ボンベを助かる見込みのない男の子に使うべきかどうかの判断を通して、生命について多面的・多角的に考えさせる。
授業実践を通して	酸素ボンベをどうするかについて、真剣に考え話し合う様子が見られた。黒板に書かれた数直線上に自分の名札を貼り、クラス内での意見の分布をひと目で分かるようにしたが、他者の意見を聴く中で考えが変容し、名札の位置を変える生徒もいた。医師として「目の前の命を救う」か「より多くの命を救う」か、葛藤する生徒が多かった。トリアージの考え方も提示しつつ授業を展開したが、立場が異なればそれに伴い酸素ボンベをどうすべきかの意見も変わるので、多角的に命について考えを深めることができたようであった。

3年



題材名	その子の世界、私の世界 (新しい道徳3 東京書籍)
題材の概要	国際問題について考える題材である。1時間目では紛争や児童労働の中を生きる子どもたちの写真を見て、ディスカッションを行った。2時間目では谷川俊太郎の『そのこ』という児童労働についての詩を読む。そして詩から感じたことを話し、児童労働を強いられる「そのこ」のために自分選んでできることはないのか考えていく。
授業のポイント	2週かけて国際問題と子どもたちについて学ぶことでより題材を深く考えることができるように工夫を凝らした。また、日本の外で起きていることで想像がつきにくいこともタブレットを活用し、視覚教材を豊富に使った。これまでの中学校生活で学んだ知識や経験を生かして活発に議論をさせていくことを目標とした。
授業実践を通して	生徒達は紛争や児童労働に苦しむ子どもの写真にショックを受け、自分選んでできることはないのか真剣に話し合っていた。チョコレートを買うことがカカオを作る国の子どもへの支援となる「身近な生活の中からできること」、フェアトレードやSDGsのような「日本や国際社会の規模できること」など様々な意見を出していた。また、国際問題の解決の難しさを実感しつつも、一人一人の小さな力が大切だと話す生徒もいた。今回の授業で知ったことや考えたことをきっかけに広い視野をもち卒業して行って欲しい。

1組



題材名	こまったプレゼント
題材の概要	自分の理想の店と友だちとの友情との間で悩む姿を通して、「本当の友だち・友情とは何か」を考える。
授業のポイント	・行動の選択の理由を聞き合うことで自分の大切にしたい考えを明確にさせる。・お互いを大事にした、よりよい行動選択を考えさせる。・どの行動にも、友だちの思い(友情)だけでなく、自分の思い(自分の理想)も大事にしている点があることを考えさせる。
授業実践を通して	・実態に応じて、伝えるとしたらどのように伝えたらよいか、隣同士で伝えあう等の活動を実施してもよいと思った。・友情をどう感じるのか問い返して考えさせるのも良い方法であった。・友だちだからこそ悩むこともあるが、その上で気持ちを伝えあうことの大切さにも気付いてほしい。・友だちへの思いや友情についての意識の変化があった証跡があれば、取り上げて紹介した。友だちだから「自分も相手も大事にしたい」という意見もあった。・相手のことを考えて悩むのはわかるが、友だちならお互いにきちんと話すことが大事だと気づいた生徒もいた。

《学校選択制に係る学校説明会》



10月16日(土)、進路説明会と並行して“学校選択制に係る学校説明会”を行いました。学校便りや学校ホームページに掲載した写真を再構成し、学校生活の様子をスライドショーで見せていただきました。

《ビブリオ・フォーラム書評発表会への参加》

10月16日(土)、清瀬高等学校を会場に清瀬市教育委員会主催の「ビブリオ・フォーラム」書評発表会が行われ、2年A組の さんが出場しました。さんは「下町ロケット ゴースト」(池井戸潤、小学館)を題材に、世の中のダイナミックな動きや現実の厳しさ、そしてその中であきらめずに努力する登場人物の姿を通して、本のもつ魅力を的確にそして堂々と発表してくれました。ちなみに、他に紹介された本は次の通りです。「りゆうがあります」(ヨシタケシンスケ、PHP研究所)、「奇譚レーム」(はやみねかおる、朝日新聞出版社)、「獣の奏者」(上橋菜穂子、講談社)、「華氏451度」(レイ・ブラッドベリ、早川書房)、「OVERLOAD—不死者の王—」(丸山くがね、KADOKAWA)、「蝶の羽ばたき、その先へ」(森楚こみち、小峰書店)、「風が強く吹いている」(三浦しをん、新潮社)、「烏に単は似合わない」(阿部智里、文藝春秋)

◆◆ 学校の様子から ◆◆



◇ 『がん』教育の取り組みを行いました。

10月26日(火)、1年生を対象に、昭和病院産婦人科理事の武知公博先生をお招きして、『がん』教育の授業を行っていただきました。

これは文部科学省が提唱している教育事業で、がん患者への理解を深め、がん患者とともに生き、互いに助け合うことのできる生き方を考えることを目的としています。



◇ 学校にヤギがやってきました。

一生懸命草を食べてくれているヤギは、コミュニティハウスを管理運営しているNPO法人「きよセラボ」さんが、コミュニティハウス周辺の除草をするために連れてきてくださったものです。

コミュニティハウス周辺だけでなく校庭の草も食べてくれています。見かけたら、どうかかわいがってあげてください。